



レイヤ 2 イーサネット インターフェイスの設定

この章では、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、Catalyst 4500 シリーズ スイッチ上でレイヤ 2 スイッチング用のファスト イーサネットとギガビット イーサネットを設定する手順について説明します。設定上の注意事項、設定手順、および設定例についても示します。この章の設定は、スーパーバイザ エンジンのアップリンク ポートを含むすべてのモジュールのファスト イーサネットおよびギガビット イーサネット インターフェイスに適用されます。

この章の主な内容は、次のとおりです。

- 「レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要」 (P.15-1)
- 「レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定」 (P.15-5)
- 「レイヤ 2 インターフェイス設定時の注意事項および制約事項」 (P.15-5)
- 「レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定」 (P.15-6)



(注)

レイヤ 3 インターフェイスの設定手順については、第 26 章「レイヤ 3 インターフェイスの設定」を参照してください。



(注)

この章のスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

<http://www.cisco.com/en/US/products/ps6350/index.html>

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要

ここでは、Catalyst 4500 シリーズ スイッチでのレイヤ 2 イーサネット スイッチングの機能について説明します。

- 「レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要」 (P.15-2)
- 「VLAN トランクの概要」 (P.15-3)
- 「レイヤ 2 インターフェイス モード」 (P.15-4)

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要

Catalyst 4500 シリーズ スイッチは、レイヤ 2 イーサネット セグメント間の同時パラレル接続をサポートしています。イーサネット セグメント間のスイッチド コネクションは、パケットが伝送されている間だけ維持されます。以降のパケットには、別のセグメント間に新しい接続が確立されます。



(注)

Cisco IOS Release 12.1(13)EW の場合、Catalyst 4500 シリーズ スイッチは 1600 バイトのパケットを処理できます。「オーバーサイズ」として処理して廃棄することはありません。このサイズは、一般的な Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE; 電気電子学会) 最大伝送単位 (MTU) (1518 バイト) および 802.1Q MTU (1522 バイト) よりも大きな値です。大容量パケットを処理するには、ネットワーク上で 2 つのネスト化した 802.1Q ヘッダーとマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) のサポートが必要です。

Catalyst 4500 シリーズは、高帯域のデバイスおよび多数のユーザに起因する輻輳問題を解決するために、デバイス (サーバなど) ごとに専用の 10 Mbps、100 Mbps、または 1000 Mbps セグメントを割り当てます。スイッチの各イーサネット インターフェイスは、それぞれ別のイーサネット セグメントに接続されているので、スイッチング環境が適切に設定されていれば、サーバは全帯域幅にアクセスできます。

衝突はイーサネット ネットワークにおける大きな障害になりますが、有効な解決策の 1 つは全二重通信です。イーサネットは通常、半二重モードで動作します。つまり、各ステーションは送信または受信のどちらか一方しか実行できません。全二重モードでは、2 つのステーション間で同時に送受信を行うことができます。パケットを同時に双方向に流すことができる場合、有効イーサネット帯域幅は 2 倍になり、10 Mbps インターフェイスで 20 Mbps、ファストイーサネット インターフェイスで 200 Mbps になります。Catalyst 4500 シリーズ スイッチのギガビット イーサネット インターフェイスは全二重モード専用で、2 Gbps の有効帯域幅を提供します。

セグメント間のフレーム スイッチング

Catalyst 4500 シリーズ スイッチ上の各イーサネット インターフェイスは、1 台のワークステーションまたはサーバに接続することも、ハブに接続し、ハブを経由して複数のワークステーションまたはサーバをネットワークに接続することもできます。

標準的なイーサネット ハブでは、すべてのポートがハブ内の共通のバックプレーンに接続され、ハブに接続されたすべてのデバイスが、ネットワークの帯域幅を共有します。2 つのデバイス間で、帯域幅を大量に使用するセッションを確立した場合には、そのハブに接続された他のすべてのステーションで、ネットワーク パフォーマンスが低下します。

パフォーマンスの低下を抑えるために、スイッチは各インターフェイスを個々のセグメントとして処理します。異なるインターフェイス上のステーションが相互に通信する必要がある場合、スイッチは一方のインターフェイスから他方のインターフェイスにワイヤ速度でフレームを転送して、各セッションが全帯域幅を利用できるようにします。

インターフェイス間でフレームのスイッチングを効率的に行うため、スイッチはアドレス テーブルを維持します。フレームがスイッチに着信すると、ルータは送信元ステーションの MAC アドレスと、フレームを受信したインターフェイスを対応付けます。

MAC アドレス テーブルの作成

Catalyst 4500 シリーズは、受信したフレームの送信元アドレスを使用して、MAC アドレス テーブルを作成します。MAC アドレス テーブルに登録されていない宛先アドレスを持つフレームをスイッチが受信すると、そのフレームを受信したインターフェイスを除き、同一 VLAN のすべてのインターフェイスにフレームをフラッドします。宛先デバイスから応答があると、スイッチは該当する送信元

アドレスおよびインターフェイス ID をアドレス テーブルに追加します。スイッチは以降のフレームについて、すべてのインターフェイスにフラッディングすることなく 1 つのインターフェイスに転送します。

アドレス テーブルには、エントリのフラッディングを伴わずに 32,000 以上のアドレス エントリを保管できます。スイッチは設定可能なエージング タイマーによって定義されたエージング メカニズムを使用するため、アドレスが非アクティブなまま指定した秒数が経過すると、そのアドレスはアドレス テーブルから削除されます。

VLAN トランクの概要

トランクとは、1 つまたは複数のイーサネット スwitチ インターフェイスと他のネットワーク デバイス（ルータ、スイッチなど）の間のポイントツーポイント リンクです。トランクは 1 つのリンクを介して複数の VLAN トラフィックを伝送するので、VLAN をネットワーク全体に拡張することができます。

すべてのイーサネット インターフェイス上で、2 種類のトランキング カプセル化方式を使用できます。

- スwitチ間リンク（ISL）プロトコル：ISL は、シスコ独自のトランク カプセル化方式です。



(注) Supervisor Engine 6-E は、ISL トランキングをサポートしていません。そのため、**switchport trunk encapsulate** コマンドはサポートされていません。



(注) WS-X4418-GB および WS-X4412-2GB-T モジュール上のブロッキング ギガビット ポートは、ISL をサポートしていません。WS-X4418-GB モジュールでは、ポート 3 ~ 18 がブロッキング ギガビット ポートです。WS-X4412-2GB-T モジュールでは、ポート 1 ~ 12 がブロッキング ギガビット ポートです。

- 802.1Q：802.1Q は、業界標準のトランキング カプセル化方式です。

トランクを設定できるのは、1 つのイーサネット インターフェイスまたは EtherChannel バンドルに対してです。EtherChannel の詳細については、第 19 章「EtherChannel の設定」を参照してください。

イーサネット トランク インターフェイスは、表 15-2 に示すトランキング モードをサポートしています。さらに、トランクでの ISL または 802.1Q カプセル化の使用、またはカプセル化タイプの自動ネゴシエーションを指定することもできます。

トランキングの自動ネゴシエーションを実行する場合は、インターフェイスが同一 VTP ドメインにあることを確認してください。異なるドメイン内のインターフェイスを強制的にトランキングするには、**trunk** キーワードまたは **nonegotiate** キーワードを使用します。VTP ドメインの詳細については、第 15 章「レイヤ 2 イーサネット インターフェイスの設定」を参照してください。

トランク ネゴシエーションは、ダイナミック トランキング プロトコル（DTP）によって管理されません。DTP は、ISL および 802.1Q の両方のトランクで自動ネゴシエーションをサポートしています。

カプセル化タイプ

表 15-1 に、イーサネット トランクのカプセル化タイプを示します。

表 15-1 イーサネット トランクのカプセル化タイプ

カプセル化タイプ	カプセル化コマンド	目的
ISL	<code>switchport trunk encapsulation isl</code>	トランク リンクに ISL カプセル化を指定します。
802.1Q	<code>switchport trunk encapsulation dot1q</code>	トランク リンクに 802.1Q カプセル化を指定します。
ネゴシエーション	<code>switchport trunk encapsulation negotiate</code>	インターフェイスがネイバー インターフェイスとネゴシエーションを行い、近接インターフェイスの設定および機能に応じて、ISL トランク（優先）または 802.1Q トランクになるよう指定します。

リンクが ISL トランクまたは 802.1Q トランクのどちらになるかは、接続された 2 つのインターフェイスのトランッキング モード、トランク カプセル化タイプ、およびハードウェア機能によって決まります。

レイヤ 2 インターフェイス モード

表 15-2 に、レイヤ 2 インターフェイス モードを示し、イーサネット インターフェイスにおける各モードの機能について説明します。

表 15-2 レイヤ 2 インターフェイス モード

モード	目的
<code>switchport mode access</code>	インターフェイスは永続的な非トランッキング モードになり、リンクを非トランッキング リンクに変換するためにネゴシエーションを行います。インターフェイスは、ネイバー インターフェイスが変更されない場合でも、非トランク インターフェイスになります。
<code>switchport mode dynamic desirable</code>	リンクからトランッキング リンクへの変換をインターフェイスにアクティブに試行させます。インターフェイスは、ネイバー インターフェイスが trunk 、 desirable 、または auto モードに設定されている場合、トランク インターフェイスになります。
<code>switchport mode dynamic auto</code>	ネイバー インターフェイスが trunk モードまたは desirable モードに設定されている場合、インターフェイスのリンクをトランッキング リンクに変換します。このモードは、すべてのイーサネット インターフェイスのデフォルト モードです。
<code>switchport mode trunk</code>	インターフェイスは永続的なトランッキング モードになり、リンクをトランッキング リンクに変換するためにネゴシエーションを行います。インターフェイスは、ネイバー インターフェイスが変更されない場合でも、トランク インターフェイスになります。
<code>switchport nonegotiate</code>	インターフェイスを永続的なトランッキング モードにしますが、インターフェイスが DTP フレームを生成しないようにします。トランッキング リンクを確立するには、ネイバー インターフェイスを手動でトランク インターフェイスとして設定する必要があります。



(注)

DTP はポイントツーポイント プロトコルです。ただし、インターネットワーキング デバイスによっては、DTP フレームが正しく転送されないことがあります。この問題を避けるために、これらのリンク上でトランキングを行わない場合は、DTP をサポートしないデバイスに接続されているインターフェイスが、**access** キーワードを使用して設定されていることを確認してください。DTP をサポートしないデバイスへのトランキングをイネーブルにするには、**nonegotiate** キーワードを使用して、インターフェイスをトランクにし、DTP フレームが生成されないようにします。

レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定

表 15-3 に、レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定を示します。

表 15-3 レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定

機能	デフォルト値
インターフェイス モード	switchport mode dynamic auto
トランク カプセル化	switchport trunk encapsulation negotiate
VLAN 許容範囲	VLAN 1 ~ 1005
プルーニングに適切な VLAN 範囲	VLAN 2 ~ 1001
デフォルト VLAN (アクセスポート用)	VLAN 1
ネイティブ VLAN (802.1Q 専用トランク用)	VLAN 1
STP ¹	すべての VLAN でイネーブル
STP ポート プライオリティ	128
STP ポート コスト	<ul style="list-style-type: none"> 10 Mbps イーサネット LAN ポートでは 100 10/100 Mbps ファスト イーサネット ポートでは 19 100 Mbps ファスト イーサネット ポートでは 19 1000 Mbps ギガビット イーサネット ポートでは 4 10,000 Mbps 10 ギガビット イーサネット LAN ポートでは 2

1. STP = スパニングツリー プロトコル

レイヤ 2 インターフェイス設定時の注意事項および制約事項

レイヤ 2 インターフェイスを設定する場合は、次の注意事項および制約事項に留意してください。

- 802.1Q トランクを使用して接続している Cisco スイッチのネットワークでは、トランク上で許容される VLAN ごとに 1 つのスパニングツリー インスタンスが維持されます。他社製の 802.1Q スイッチが維持するのは、トランク上で許容されるすべての VLAN に対してスパニングツリー インスタンス 1 つだけです。

802.1Q トランクを使用して Cisco スイッチを非シスコ デバイスに接続する場合、Cisco スイッチは、トランクのネイティブ VLAN のスパニングツリー インスタンスを、非シスコ 802.1Q スイッチのスパニングツリー インスタンスと結合します。ただし、各 VLAN のスパニングツリー情報

は、他社製の 802.1Q スイッチのクラウドと切り離され、Cisco スイッチで維持されます。Cisco スイッチを切り離している他社製の 802.1Q のクラウドは、スイッチ間の単一トランク リンクとして扱われます。

- 802.1Q トランクのネイティブ VLAN が、トランク リンクの両端で同一であることを確認してください。トランクの一端の VLAN と反対側の VLAN が異なると、スパニングツリー ループの原因になります。
- 802.1Q トランクのいずれかの VLAN でスパニングツリーをディセーブルにしても、スパニングツリー ループが発生する場合があります。

レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

ここでは、Catalyst 4500 シリーズスイッチにおけるレイヤ 2 スイッチングの設定手順について説明します。

- 「レイヤ 2 トランクとしてのイーサネット インターフェイスの設定」(P.15-6)
- 「レイヤ 2 アクセス ポートとしてのインターフェイスの設定」(P.15-8)
- 「レイヤ 2 設定のクリア」(P.15-10)

レイヤ 2 トランクとしてのイーサネット インターフェイスの設定



(注)

レイヤ 2 インターフェイスのデフォルトは、**switchport mode dynamic auto** です。ネイバー インターフェイスがトランキングをサポートし、trunk モードまたは **dynamic desirable** モードに設定されている場合、リンクはレイヤ 2 トランクになります。デフォルトでは、トランクはカプセル化のネゴシエーションを行います。ネイバー インターフェイスがそれぞれ ISL と 802.1Q のカプセル化方式をサポートし、いずれのインターフェイスもカプセル化タイプのネゴシエーションに設定されている場合、トランクは ISL カプセル化方式を使用します。



(注)

Supervisor Engine 6-E は、ISL トランキングをサポートしていません。

インターフェイスをレイヤ 2 トランクとして設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# shutdown	(任意) 設定が完了するまでトラフィック フローを防止するために、インターフェイスをシャットダウンします。

コマンド	目的
ステップ 3 Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation {isl dot1q negotiate}	(任意) カプセル化方式を指定します。 (注) このコマンドと一緒に isl または dot1q キーワードを指定して、デフォルト モード (negotiate) ではサポートされない switchport mode trunk コマンドをサポートするようにします。 (注) Supervisor Engine 6-E は、ISL トランキングをサポートしていません。
ステップ 4 Switch(config-if)# switchport mode {dynamic {auto desirable} trunk}	インターフェイスをレイヤ 2 トランクとして設定します (インターフェイスがレイヤ 2 アクセス ポートの場合、またはトランキング モードを指定する場合だけ)。
ステップ 5 Switch(config-if)# switchport access vlan vlan_num	(任意) インターフェイスがトランキングを停止した場合に使用するアクセス VLAN を指定します。アクセス VLAN がネイティブ VLAN として使用されることはありません。 (注) vlan_num パラメータは、1 ~ 1005 の単一の VLAN 番号または 2 つの VLAN 番号 (小さい方が先、ダッシュで区切る) で指定する VLAN 範囲です。カンマで区切った vlan パラメータの間、またはダッシュで指定した範囲の間には、スペースを入れないでください。
ステップ 6 Switch(config-if)# switchport trunk native vlan vlan_num	802.1Q トランクの場合、ネイティブ VLAN を指定します。 (注) ネイティブ VLAN を設定しない場合、デフォルトが使用されます (VLAN 1)。
ステップ 7 Switch(config-if)# switchport trunk allowed vlan {add except all remove} vlan_num[,vlan_num[,vlan_num[,...]]	(任意) トランク上で許容される VLAN のリストを設定します。デフォルトでは、すべての VLAN が許可されます。トランクからデフォルト VLAN を削除することはできません。
ステップ 8 Switch(config-if)# switchport trunk pruning vlan {add except none remove} vlan_num[,vlan_num[,vlan_num[,...]]	(任意) トランクでプルーニングが許容されている VLAN のリストを設定します (「VLAN トランキング プロトコル」 (P.13-7) を参照)。デフォルトでは、プルーニングが許容される VLAN のリストに、VLAN 1 を除くすべての VLAN が含まれます。
ステップ 9 Switch(config-if)# no shutdown	インターフェイスをアクティブにします (インターフェイスをシャットダウンしている場合に限り必要)。
ステップ 10 Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11 Switch# show running-config interface {fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 12 Switch# show interfaces [fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet] slot/port switchport	インターフェイスのスイッチ ポートの設定を表示します。
ステップ 13 Switch# show interfaces [{fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port] trunk	インターフェイスのトランクの設定を表示します。

次に、ファストイーサネット インターフェイス 5/8 を 802.1Q トランクとして設定する例を示します。この例では、ネイバー インターフェイスが 802.1Q トランキングをサポートするように設定され、ネイティブ VLAN のデフォルトが VLAN 1 に設定されているものとします。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/8
```

■ レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

```
Switch(config-if)# shutdown
Switch(config-if)# switchport mode dynamic desirable
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# end
Switch# exit
```

次に、実行コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/8
Building configuration...
Current configuration:
!
interface FastEthernet5/8
  switchport mode dynamic desirable
  switchport trunk encapsulation dot1q
end
```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet 5/8 switchport
Name: Fa5/8
Switchport: Enabled
Administrative Mode: dynamic desirable
Operational Mode: trunk
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: Enabled
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
```

次に、トランクの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet 5/8 trunk

Port      Mode          Encapsulation  Status        Native vlan
Fa5/8     desirable    n-802.1q       trunking     1

Port      Vlans allowed on trunk
Fa5/8    1-1005

Port      Vlans allowed and active in management domain
Fa5/8    1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-802,850,917,999,1002-1005

Port      Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned
Fa5/8    1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-802,850,917,999,1002-1005

Switch#
```

レイヤ 2 アクセス ポートとしてのインターフェイスの設定



(注) 存在しない VLAN にインターフェイスを割り当てると、VLAN データベースにその VLAN を作成するまで、インターフェイスは機能しません（「[グローバル コンフィギュレーション モードでの VLAN の設定](#)」(P.13-5) を参照）。

インターフェイスをレイヤ 2 アクセス ポートとして設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# shutdown	(任意) 設定が完了するまでトラフィック フローを防止するために、インターフェイスをシャットダウンします。
ステップ 3	Switch(config-if)# switchport	インターフェイスをレイヤ 2 スイッチング用に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスをレイヤ 2 ポートとして設定するには、キーワードを指定せずに switchport コマンドを 1 回入力する必要があります。そのあとで、キーワードとともに他の switchport コマンドを入力してください。 • それまでにインターフェイスに対して no switchport コマンドを入力している場合にだけ必要です。
ステップ 4	Switch(config-if)# switchport mode access	インターフェイスをレイヤ 2 アクセス ポートとして設定します。
ステップ 5	Switch(config-if)# switchport access vlan <i>vlan_num</i>	インターフェイスを VLAN 内に配置します。
ステップ 6	Switch(config-if)# no shutdown	インターフェイスをアクティブにします (インターフェイスをシャットダウンした場合だけ)。
ステップ 7	Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	Switch# show running-config interface { fastethernet gigabitethernet } <i>slot/port</i>	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 9	Switch# show interfaces [{ fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>] switchport	インターフェイスのスイッチ ポートの設定を表示します。

次に、ファスト イーサネット インターフェイス 5/6 を VLAN 200 のアクセス ポートとして設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/6
Switch(config-if)# shutdown
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport access vlan 200
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# end
Switch# exit
```

次に、実行コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/6
Building configuration...
!
Current configuration :33 bytes
interface FastEthernet 5/6
  switchport access vlan 200
  switchport mode access
end
```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

■ レイヤ 2 スwitチング用のイーサネット インターフェイスの設定

```
Switch# show interface fastethernet 5/6 switchport
Name:Fa5/6
Switchport:Enabled
Administrative Mode:dynamic auto
Operational Mode:static access
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Operational Trunking Encapsulation:native
Negotiation of Trunking:On
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Administrative private-vlan host-association:none
Administrative private-vlan mapping:none
Operational private-vlan:none
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001
Switch#
```

レイヤ 2 設定のクリア

インターフェイス上のレイヤ 2 設定をクリアするには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# default interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	クリアするインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 3	Switch# show running-config interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	Switch# show interfaces [{ fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>] switchport	インターフェイスのスイッチ ポートの設定を表示します。

次に、ファストイーサネット インターフェイス 5/6 のレイヤ 2 設定をクリアする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# default interface fastethernet 5/6
Switch(config)# end
Switch# exit
```

次に、レイヤ 2 設定のクリアを確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/6
Building configuration...
Current configuration:
!
interface FastEthernet5/6
end
```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet 5/6 switchport
Name: Fa5/6
Switchport: Enabled
Switch#
```